

3. 「誰にでも出来る資産運用」

「資産運用」といえば、みなさんはどのようなイメージをお持ちでしょうか。

今時ですから、パソコンやスマホで赤や青などのグラフや数字の羅列をみながら株やFXに投資したり、あるいはマンションを購入して家賃収入を得たり、実物資産として金を買う・・・などを想像する方も多いのではないのでしょうか。

それ以外にも、世間には本当に数え切れないほどの投資の情報があふれています。

また、銀行や証券会社などでも特別な資産家や高所得者向け以外の、一般の方向けのセミナーや相談会などが各地で開催されています。実際に我々ファイナンシャルプランナーの相談現場でも、資産運用についての問い合わせが以前と比べて増えてきています。

しかし、そうは言っても「損はしたくないし、自分には難しそう」、「自分には投資なんて絶対無理！」という方にも、今日は誰にでも出来る資産運用についてお話したいと思います。

資産運用の目的は一般的に、投資して利益を得ることです。

そのためには、どのような投資をするにしても、その金融商品を、「安く買って、高く売る」、ただこれだけのことです。

「あたりまえだ」、「そんなことはわかっている」など、お叱りの声が聞こえてきそうです。

そうなのです。そのことは誰にでもわかりきっています。問題はどこが安値で、どこが高値なのか、それが誰にもわからないということなのです。

そこで、今回はそれをふまえたうえで、値動きのある相場で、どのような投資が有効なのかについて、一緒に考えてみましょう。

例えば、今手元に40,000円を持っていたとします。

この資金で、ある会社の株を買うとを考えてください。



買い方は、一度にまとめて買うのではなく、毎月10,000円ずつ買い付ける方法をとります。1ヶ月目、この会社の株価は、1,000円でした。

$$10,000\text{円 (投資額)} \div 1,000\text{円 (一株の価格)} = 10\text{ (株)} \dots \textcircled{1}$$



つまり、株価が1,000円のとときに10,000円でこの株を買くと、10株買ったこととなります。

翌2ヶ月目、株価は500円に急落しました。それでも今月も10,000円でこの会社の株を買います。

$$10,000\text{円 (投資額)} \div 500\text{円 (一株の価格)} = 20\text{ (株)} \dots \textcircled{2}$$

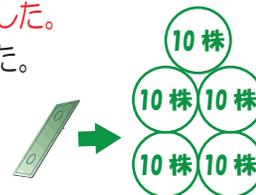


3. 「誰にでも出来る資産運用」

株価が1,000円から500円に、半額となってしまいましたが、そのおかげで購入できた株式は20株と先月の2倍の数を買えました。

3ヶ月目、あろうことか、株はさらに値を下げて暴落し、200円となってしまいました。それでもひるまず、今月初の予定通り10,000円でこの会社の株を買いました。

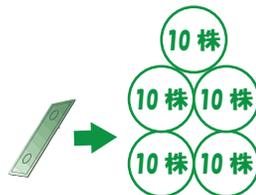
$$10,000\text{円 (投資額)} \div 200\text{円 (一株の価格)} = 50\text{ (株)} \dots \textcircled{3}$$



当然のことながら、株価が下がれば下がるほど、買うことが出来る株の数は多くなります。

さらに4ヶ月目、株価は先月と変わらず、200円のままです。

$$10,000\text{円 (投資額)} \div 200\text{円 (一株の価格)} = 50\text{ (株)} \dots \textcircled{4}$$



ここまで投資した合計金額40,000円で、取得した株の数は、

$$\textcircled{1} 10\text{株} + \textcircled{2} 20\text{株} + \textcircled{3} 50\text{株} + \textcircled{4} 50\text{株} = \text{合計} 130\text{株} \dots \textcircled{5} \quad \text{となります。}$$

もう一度整理してみますと

	投資額	株価	購入株数
1月目	10,000円	1,000円	= 10株 …… ①
2月目	10,000円	500円	= 20株 …… ②
3月目	10,000円	200円	= 50株 …… ③
4月目	10,000円	200円	= 50株 …… ④
合計			130株

ここまでの間、株価は下げ続けました。しかし相場の世界では、よほど特別なことでもない限り、ずっと上げ続けることもなければ下げ続けることもありません。通常はどこかで反転、上昇に転じます。

今回はこの翌月に、もともとの最初の投資時点の株価1,000円の半値で500円まで値を戻したとします。

この時点で株を売ったとして、今回の投資の成果を計算してみます。

$$\text{評価額合計 } 500\text{円} \times \textcircled{5} 130\text{株} = 65,000\text{円} \dots \textcircled{6}$$

$$\text{投資額 } 10,000\text{円} \times 4\text{回} = 40,000\text{円} \dots \textcircled{7}$$

$$\textcircled{6} \text{ 評価額合計 (65,000円)} - \textcircled{7} \text{ これまでの投資額 (40,000円)} = 25,000\text{円}$$

つまり、4万円の投資で、25,000円の利益を得たこととなります。

いかがですか？

株価が下がっているのに、利益が出た。少し不思議に思われる方もいらっしゃるかもしれませんね。



3. 「誰にでも出来る資産運用」

もし、最初の株価が1,000円のときに、全額の40,000円で一度にこの株に投資したとして、株価がどのように500円まで下がってしまえば、投資額は半減して、20,000円になってしまうところでした。こうなってしまってからでは、なかなか次の手立てがとりにくくなってしまいます。

しかし今回のように、一定の金額を一定の間隔ごとに投資することで、高いときには少なく、安いときにはより多くの資産を買い付けることが出来ます。この方法によって、平均的に買い付ける単価を引き下げる効果がでてきます。

さて、このように一定間隔ごとに、決まった金額で決めた銘柄を買い付けていく投資の方法を「ドルコスト平均法」といいます。いつから始まったのかは不明ですが、伝統的な投資法です。

身近なところでは、金の定額貯蓄、勤務先の持ち株会、確定拠出年金などもあり、この方法をご存知の方も少なくありません。

もちろんこの方法はすべての値動きにおいて有利というわけではありません。しかし、誰にでも出来る投資法として投資の世界では有名な方法なのです。

ただし実際には、株は会社によって最低取引の単位があって、この例のように小額では買い付けすることができません。また一社だけに投資してしまうと、ひょっとしてその会社が倒産して株の価値がなくなってしまうこともありえます。そこで前回学習した、投資信託であれば分散効果もあるので、この投資法には向いています。そして、この投資法では前回解説した分配型ではなく無分配型、つまり利益は途中で出さずに再度投資して利益を積み上げていくタイプのほうがより資産の成長が見込めます。

日経平均やアメリカの株価に連動する商品などもあります。何を選ぶかも自己責任、ここは少し勉強してみてください。いまでは、毎月5,000円から自動で買い付けしてもらえる仕組みの商品もあります。

また、変額保険や変額年金と呼ばれる、投資型の生命保険もあります。ある一定の保障を確保しながら、将来に向けて投資していきたい方向けかと思われます。

前回解説した、分配型の補助エンジンで老後資金作りにこの方法を組み合わせるのもよいかもしれません。

20年続いた不況から、日本経済が復活の時を迎えようとしているかもしれない現在。ガソリンや食品など円安による輸入物価の高騰、消費税の増税や、公共料金の値上など、景気回復以外の要因でも物価が上昇し始めているようです。決してあせる必要はありませんが、そろそろそういったインフレに対する備えも始めていくべき時期なのではないでしょうか。

投資にはリスクが付きものです。しかし、リスクがいやだからといって、資産を預貯金で持ち続けることのみでは、今度はインフレというリスクを背負おうことになります。「リスクをとらないことがリスク」という時代が来ているのかもしれない。

もし、不安に思われる方は、いずれの対策をとるにしても、まずはしっかりとライフプランニング（将来の資金設計）を行ったうえで、検討、判断、実行していただきたいと思います。

それでは、皆さんのこれからの暮らしがよりハッピーで、より安心なものとなりますように。最後までお付き合いいただきありがとうございました。



※講師のプロフィールの詳細につきましては、神戸市民生協インターネットセミナー第1回をご参照ください。

※神戸市民生協インターネットセミナーの内容を無断で使用、複製、改変することを禁じます。